

単元名

あきと なかよし

教科書 上巻 p.64～83 単元の配当時間 16時間／活動時期 10～ 11 月

単元の目標

秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やそのほかの季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然のようすや夏から秋への変化がわかったり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化に関心をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
あきは どんな きせつかな？ （1時間） 幼児期や日常生活での経験をもとに自分が知っている秋の自然のようすや秋遊びを振り返り、秋の自然の特徴を予想したり、してみたいことを考えたりして、秋探しや秋遊びへの意欲を高めることができるようにする。	態	秋を楽しみたいという思いをもって、秋探しや秋遊びの見通しを立てようとしている。	「幼稚園では、秋にいもほりに出かけたよ」や「公園で、夏には落ちていなかったたくさんのどんぐりを見つけたよ」など、自分が知っている秋の特徴を積極的に振り返り、してみたいことを伝えたり、学校でできることを考えて進んで提案したりしようとしている。	●秋の特徴がわかる写真を見せたり、実際に木の実や落ち葉を触らせることで、子どもが秋に関心をもてるように支援する。 ●友達の話聞いて、してみたい遊びや見付けてみたいものがないか考えるように助言する。
あきの 校ていに 出て みよう（2時間） 秋の校庭を探検し、諸感覚を使って秋の特徴を見付けたり、夏の校庭のようすと比べたりして、秋の自然のようすや特徴、季節の移り変わりに気付くことができるようにする。	知	校庭の自然のようすが夏から秋になって変化したことに気付いている。	色や形、においなどに着目して「今までにおわなかった木に、オレンジの花が咲いて、いいにおいがしたよ」などと気付いたり、「夏より涼しくなったから長袖を着るようになったんだね」などと自分たちの生活と季節の変化とのつながりに気付いたりするなど、多面的・多角的に秋の特徴や季節の変化に気付いている。	●夏に撮った校庭の写真と、秋に撮った校庭の写真を並べたり、教科書上巻p.69 左上のQR コードからの春～秋の校庭のイラストを見せたりして、どんな変化があるか視覚的にとらえることができるように支援する。
	思	夏の校庭のようすと比較しながら、秋の特徴を見付けたり、秋の自然と関わったりしている。	「校庭に、丸い形のどんぐりがあったよ」「落ち葉を踏んだら、いろいろな音がしたよ」など、諸感覚を生かして、身近な秋の自然に関わったり遊びを工夫したりしている。	●実際にいっしょに校庭に出かけて、「あの木の葉の色は、どう変わったかな？」など、夏のようすと比べる視点を与え、季節による変化を考えることができるように助言する。

単元の評価規準

●知識・技能

秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然のようすや夏から秋への変化がわかったり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりしている。

●思考・判断・表現

秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やそのほかの季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。

●主体的に学習に取り組む態度

秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化に関心をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
こうえんで あきを さがそう （3時間） 校庭での経験を生かして公園を探検し、諸感覚を使って秋の特徴を見付けたり、秋の自然の不思議さや面白さを感じたりして、秋の自然のようすや特徴、季節の移り変わりに気付くことができるようにする。	知	夏から秋になって、植物や生き物のようすが変化していることや、人々の生活が変わっていることに気付いている。	「お店で、栗まんじゅうが売られていたよ」や「公園にはたくさんの葉っぱが落ちていて、掃除をしている人がいたよ」など、自分の身近な場所も、夏から秋になって変化していることに気付いている。	●春の公園のイラストが載っている教科書上巻P.16 ～ 17 と秋の公園のイラストが載っている同p.70 ～ 71 を見せて、「どんなところが、変わっているかな？」とたずね、変化に気付けるよう支援する。 ●実際に、公園や野原に出かけ、夏と秋ではどんなところに違いがあるかをいっしょに確認し、違いに気付くことができるように支援する。
	態	秋を見付けたいという思いをもって、公園の季節の変化を探したり、秋の自然と関わったりしようとしている。	「夏には緑だった葉っぱの色が、黄色や赤に変わっているよ」「夏には緑色だったどんぐりの実が、茶色に変わって、落ちているよ」など、四季の変化や季節の特徴を確かめながら、積極的に身近な自然を楽しもうとしている。	●うまく遊びを見付けられない子どもや1人で遊んでいる子どもに声をかけ、活動のヒントを示したり、友達といっしょに活動できる場をつくったりする。
見つけた あきをつたえよう （2時間） 校庭や公園で見付けた木の実や落ち葉をじっくり観察したり、これまでの活動を振り返って夏のようなす和秋のようなすを比べたりする活動を通して、季節の変化やその特徴に気付くとともに、友達と伝え合うことができるようにする。	思	秋の自然の中で活動したことを振り返りながら、季節の変化や特徴について友達と伝え合っている。	秋の自然の不思議さや面白さを具体的にとらえ、自分のお気に入りの秋をどう伝えるか考えて、工夫して発表したり、友達に伝えたりしている。	●教師が撮った活動中の写真や動画や、自分で撮った写真があれば、それらを活用して、どんな秋を発見できたのか、絵や言葉で伝えられるように支援する。
	態	季節の変化や特徴について、積極的に発言したり、友達の発表を聞いたりしようとしている。	楽しかった活動や思いを自分なりに工夫して表現したり、友達の発表を積極的に聞いて、わからないことや詳しく知りたいことを質問したりしようとしている。	●自分が気付いた秋について、安心して友達の前で発表できるように「私が見付けた秋のおすすめは○○です」「どうしておすすめかというと、○○だからです」など、基本的な話型を紙にして示して、発表がうまいくように支援する。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
あきのおもちゃをつかってあそぼう（5時間） 木の実や落ち葉などの秋の自然物を使って遊ぶものや飾るもの、生活に役立つものを工夫して作ったり、自然物の形状からさまざまな発見をしたりして、秋を楽しむことができるようにする。	知	秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。	色や形、大きさなど、その自然物のもつ特徴をうまく利用すれば、おもちゃがよりよくなることに気付いている。	●工夫することが難しい子どもには、実際に教師が作ったおもちゃや、完成した作品の写真、動画などを見せ、子どもが作りたいという気持ちになるように支援する。
	思	比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫して作っている。	「細長い形のどんぐりと丸い形のどんぐりがあるよ。こまにしたとき、どっちのほうが長く回るか試してみるよ」 「どんぐりをペットボトルに入れて振ると、マラカスのような音がするよ。ペットボトルに入れるどんぐりの量を変えると音が変わるのが面白いよ」など、秋の自然物を生かした遊びを考えたり、試行錯誤しながらおもちゃを作ったりしている。	●「できたものを、友達と比べてみよう」「友達とは、音が違うね」などと投げかけ、工夫できることを考えさせる。
	態	友達の意見を取り入れたり、自分の気付きとの違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。	自分のおもちゃをよりよくしたいという思いをもって、何度も試したり、友達の意見や友達のおもちゃのよさを取り入れたりしながら、粘り強くおもちゃを改良しようとしている。	●「〇〇さんのどんぐりこまはよく回るね」「どんな工夫をしたのかな」など、友達の工夫をいっしょに聞き、さらに楽しく遊ぶことができるように支援する。
あきのあそびをたのしもう（3時間） 招待する人の気持ちを想像しながら、みんなが楽しめるようにおもちゃを改良したり、ルールや約束を工夫したりして、秋のおもちゃランドを開くことができるようにする。	知	みんなで遊ぶことのよさや、季節の自然物を使っておもちゃを作ることの楽しさに気付いている。	季節の特徴を生かすと、生活がより楽しくなることに気付いたり、遊びを創り出すことの楽しさや喜びに気付いたりしている。	●うまく協力できていないようすが見られたら、友達といっしょに遊ぶことの楽しさに気付けるように、積極的に助言を行い、グループの一員として、楽しく活動できるように支援する。
	思	みんなが楽しく遊べるようにルールや約束を工夫したり、相手に遊び方をわかりやすく伝えたりしている。	「年長さんには、もう少し簡単なルールにしようよ」など招待する人のことを意識しながら、みんなで楽しく遊ぶためのよりよいルールや約束を工夫したり、相手に遊び方をわかりやすく伝えたりしている。	●言葉で伝えることが難しい子どもには、「〇〇さんは、こんなふうに考えているんだよ」と支援し、グループ内でスムーズに協力できるようにする。
	態	楽しい秋のおもちゃランドを開きたいという思いをもって、必要な役割を話し合ったり、協力して準備をしたりしようとしている。	グループで話し合って、役割を決め、秋のおもちゃランドがスムーズに行えるように工夫しようとするとともに、季節を生かして遊ぶことに楽しさと手応えを感じ、これからも季節の遊びを楽しもうとしている。	●紹介する人が秋のおもちゃランドを楽しみにしていることを伝え、楽しい会を開くことへの意欲を高める。